

平成 22 年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立能登青翔高等学校

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
1	基礎・基本の徹底と、生徒にとってわかる授業、生徒が意欲的に取り組む授業の工夫を図る	①	緊張感を持った授業組立に取り組み、授業規律を確立させる。（私語、居眠りを無くす）	学習意欲が高まり、指導に満足している割合が、 A 75%以上 B 65%以上 C 55%以上 D 55%未満	A	授業評価アンケート結果の平均により、「やや良い、良い」の割合が、教員評価 9 4 %、生徒評価 9 7 %であった
		②	特別時間を設定し、漢字学習を推進する。	3 回の漢字検定で 4 級に満たない生徒の割合が、 A 25%以内 B 30%以内 C 35%以内	A	5 級以下の生徒の割合が、2 2 %（4 人）中間評価以後の指導で向上した。
			特別時間を設定し、読書活動を推進する	5 冊以下の生徒が A 25%以内 B 35%以内 C 45%以内	B	5 冊以上読破した生徒数は、12 人／18 人（67%） 図書館平均貸し出し冊数で、13.8 冊／人中間評価以後向上した。
		③	適切な学習課題を課して生徒の家庭学習時間を増加させる。	年間を通して学習課題を A 毎週適切に課した B 時々課した C あまり課さなかった 家庭学習時間量 0.5 時間以上が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C B	教師評価 A 22%、B 34%、C 44% 生徒評価 A 11%、B 22%、C 67% 通常で B 6 6 %、考査前で A 9 4 % 個々の進路を見据え、若干向上した
		漢字検定を含む各種資格取得への取り組みを推進する	資格取得に意欲的に取り組む生徒の割合が、 A 75%以上 B 50%以上 C 50%未満 2 級以上の資格取得者数が、 A 15%以上 B 10%以上 C 5%以上	B A	6 1 %（1 1 名） 2 8 %（5 名）	
学校関係者評価委員会の評価		生徒に対する取り組み状況は良いが、家庭学習時間に問題があり、家庭学習推進の具体的対応が必要である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		生徒個々の進路目標を明確化し、具体的に取り組ませることで進路実現達成を促したことで、中間評価以後は学習時間量の増加が向上した。特別時間の設定を朝のショートホーム後に変更して漢字学習、読書活動を推進したことで落ち着いて取り組む様子がうかがえた。				

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
2	豊かな人間性の育成を推進する	①	身だしなみ指導で違反回数に応じた指導を推進させる。	繰り返して指導を受ける生徒の割合が、 A 10%以内 B 15%以内 C 20%未満 D 20%以上	D	2 回以上指導を受けた生徒の割合 50%（9 人）担任注意 3 回以上 " 33%（6 人）生徒指導注意 自覚を促すさらなる取り組みが求められた。
			登下校時や職員室の入退室時にきちんと挨拶が出来るよう、生徒会活動を推進する。	全員が元気な挨拶をしていると思う割合が、 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上	範囲外	生徒評価 C 6 2 % 挨拶は普通に行われているが、「元気な」挨拶には自信を持っていない様子であった。
		②	農場施設の有効活用も踏まえたボランティア活動の推進	参加した生徒の満足度が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%以上	C	満足している割合が 6 1 % （ボランティア活動に肯定的な考えの割合が 3 4 %）
			体力アップ 1 校 1 プランに基づいた、基礎体力の向上を図る。	5 月と 1 月に体力測定を実施したとき、記録向上した生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%以上	A	トレーニングにゲームの要素を取り入れ、楽しみながら体を動かし、体力を高めることへの意識づけを行った結果、すべての生徒が 1 種目で評価を 1 ランク向上した。
学校関係者評価委員会の評価		挨拶と身だしなみが社会生活の基本であることをあらゆる機会を利用して生徒に繰り返し指導していく。体力の向上にむけて意識づけと基礎体力向上を今後も推進する				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		身だしなみ指導は集会ごとに教員全員で対応することで生徒自身の理解と意識の向上を促す。農場施設を有効利用したボランティア活動（プランター花壇を作り地元へ提供）は地域に快く受け入れられている。				

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
3	教員の指導力向上の取組を推進する	①	互見授業と生徒の授業評価を通じた授業改善の推進	授業見学した回数（授業時数）が、 A4回以上 B3回 C2回 D1回	D	10時／10人＝12時(回)
		②	教科指導等研究会やセンター研修等への参加による教科指導力の向上	年間を通して、研修や情報交換会に参加した回数が、 A4回以上 B2～3回 C1回 D0回	B	22回／11人＝2回
学校関係者評価委員会の評価		今後も具体的取組の継続が求められる。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		研究授業および研究協議会、情報交換会への参加、並びに他教科の授業見学の回数を増加させて教師自身の意識改革と指導力向上を図る。今後は少人数教育だけでなく、多くの生徒を対象とした授業展開に向けた指導力向上への取組みが必要である。				

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
4	特色ある教育活動の積極的な情報提供を行い、保護者や地域から信頼される学校づくりを図る	①	学校だよりを利用して積極的な情報発信に努める。	活動状況がよく分かると回答した割合が、 A85%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	A	情報提供のアンケート結果は全体で95%（保護者・地域あわせて84%）である。
		②	教育ウィーク期間を中心に、学校公開を推進する。	来校者アンケートで、本校の教育活動に対して満足しているか、 A満足している B不満はない C不満である	B	述べ13名が来校し、不満に思う回答は得られなかった。
学校関係者評価委員会の評価		毎月発行する学校だよりは、学校の様子がよくわかり、地元地域への情報発信の有効な手段としてはたっている。今後も継続が必要である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		毎月発行するという頻度を維持し、併せて内容を充実するとともに、多くの人たちに公開する。				

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
5	農業教育の重要性に対する理解と農業の持つ教育力を発揮できるよう、農場設備の活用方法の工夫や農場経営の改革を図る。	①	栽培・飼育・加工などの農業実習を通して達成感を得るとともに健全な勤労観を養う。	農業（栽培・飼育・加工）を学習したことを良かったと思う生徒の割合が、 A80%以上 B70%以上 C70%以上 D70%未満	A	よく思う生徒が100%であった。
		②	農場教育施設を利用した体験学習の推進を図り、農場の開放の促進と農業への興味・関心の増加を図るため開放講座（県民大 学校）を開講する。	指導に満足している割合が、 A80%以上 B70%以上 C70%以上 D70%未満	A	とても満足している44%、満足している56%、合計で100% 次年度も開催を希望する割合が100%である。
学校関係者評価委員会の評価		開かれた教育を推進する機会として、農場施設を活用した開放講座は有効である。農家でない子弟にも実習体験を多くした農業教育は生徒個々の将来にも有意である。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		農場施設を活用した開放講座は好評であった。農業への興味・関心・理解を深めるだけでなく、教育施設を地域へ開放し利用することを推進する。				

	重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）および次年度の扱い（改善策等）	
6	能登高校地域創造学科（農業系・福祉系）の学習と鳳柳寮運営の円滑な推進を図る。	①	能登高校地域創造科1年生（農業系・福祉系）の後期授業が能登青翔高校の校舎でスムーズに授業展開される	違和感なく授業が展開されたと思う生徒の割合が、 A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%以上	B	（能登青翔高校生徒は違和感を持たなかった。） 能登高校生徒は76%違和感を持たなかった。
		②	鳳柳寮のこれまでの寮日課と寮運営を生かした生活指導体制の確立を図る	寮日課、寮内規則を守れない生徒が1ヶ月につき、 A1人以下 B2人以下 C3人以下 D4人以上	A	これまで合計で3人の生徒が該当し、指導を受けた。1年生で、団体生活に不適應な生徒が退寮したため、生活指導体制に問題のある生徒はいない。
学校関係者評価委員会の評価		2つの学校の生徒が同居している寮において、円滑に寮運営がなされていることは良いことである。注意深く指導し、良好な寮生活となるよう職員に努力してもらいたい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		能登高校への移行を踏まえて、寮の日課時間および寮の規則を作成し、規律ある寮生活が行えるようにする。				